

マリックスオフィスシステム株式会社

2025 年度 環境経営レポート

(対象期間 2025 年3月1日～ 2026 年2月28日)



作成日： 2026年5月26日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	9
これまでの環境活動の紹介	10



◆ ごあいさつ

昭和40年の創業以来、弊社は大阪府下を活動の中心とし複合機を主としたOA機器の総合商社として歩んでまいりました。『快適なお客様の事業環境を創造していただくための高品質な機器におけるDXとSDG'sを意識した商品をご提案ご提供すると共に、さらに職場環境のコミュニティ改革までを実現できるトータルソリューションを推進致します』これを経営理念にこれからもお客様は当然のことお客様のお取引先の未来までを見据えた事業活動を進めて参ります。

また弊社は2020年4月をもちまして法人創立50周年を迎えましたが、この長い歩みの中で積み上げてまいりました社会との信頼関係がより強固なものとなりますよう地域社会の皆様にも目に見えて認識いただける環境保全活動を継続して参ります。今般取り扱い商品のデジタル技術が多くの貢献を拡大させる現代、人にやさしいオフィスや作業環境イノベーションの創造をお手伝いするマリックスオフィスシステムに大きなご期待を頂きますようよろしくお願いいたします。

環境経営方針

<環境経営理念>

私たちは環境保全の重要性とその社会的、公共的使命を自覚し、全従業員が事務機器販売及びサービス業務の活動を通じ、定めた行動指針のもと積極的に地球温暖化問題に取り組みます。そして自然環境に好影響となるよう環境目標を設定し、達成に向けての取組みサイクルを継続、改善し、その実績を一般公表いたします

<環境保全への行動指針>

1. 環境に関する法規制や組織が同意するその他の重要事項を遵守します
2. 省電力と適切な車両運行管理により二酸化炭素排出量削減を図り、地球温暖化防止に努めます
3. 節水による水使用量と排水量の削減に努めます
4. 廃棄物排出量削減に向け、分別の徹底等の適正処理と、機械部品等のリユースに留意します
5. 環境に配慮した商品の販売推進と保守活動に努めます
6. 社内備品、事務用品・車両等のグリーン購入と調達に努めます
7. 会社周辺道路の清掃活動による美化維持に努めます

制定日：2009年3月1日

改定日：2022年7月1日

代表取締役 苦瓜 正之

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マリックスオフィスシステム株式会社
代表取締役 苦瓜 正之

(2) 所在地

本 社 大阪府大阪市住吉区長居西3丁目1番32号
テクニカルセンター 大阪府大阪市住吉区長居4丁目2番19号 フローライト長居 1 F

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役 吉川 雅偉 TEL : 06-6609-2661
担当者 業務課 天野 世津子 TEL : 06-6609-2661

(4) 事業内容

OA機器全般及びその消耗品・通信機器・高度管理医療機器の販売業、
賃貸業及び修理業、IT管理サービス等のオフィスソリューション事業

(5) 事業の規模

売上高 10.12 億

	本 社	テクニカルセンター	合計
従業員 名	18 名	2 名	20 名
延べ床面積 m ²	347.13 m ²	117.35 m ²	464.48 m ²

(6) 事業年度 3 月 1 日 ~ 2 月 28 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : マリックスオフィスシステム株式会社
対象事業所 : 本社、テクニカルセンター

活動 : OA機器全般及びその消耗品・通信機器・高度管理医療機器の販売業、
賃貸業及び修理業、IT管理サービス等のオフィスソリューション事業

□事業や製品(商品)の紹介

★デジタルMFP



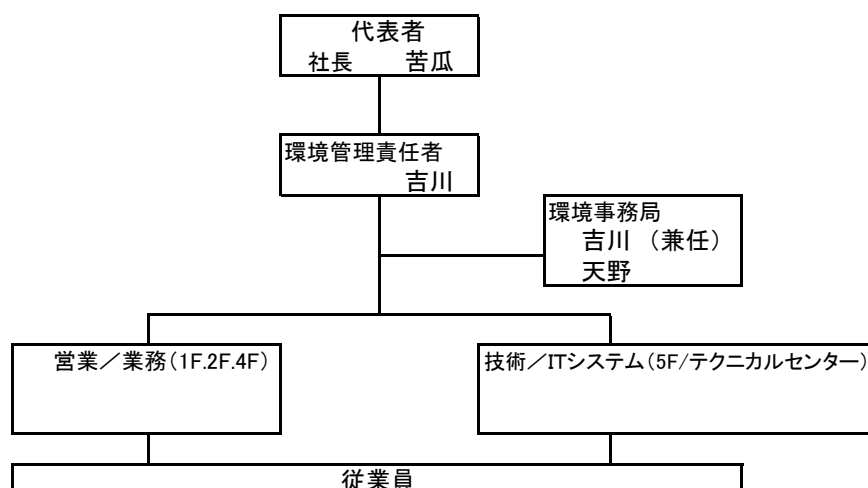
★事務コン(業務の効率化をお手伝い)



★InformationGuard(セキュリティ対策)



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2023年	2024年	2025年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	59,022	53,948	56,441
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	574	569	575
産業廃棄物排出量	kg	4200	2800	4,200
水使用量	m ³	117	115	121

※二酸化炭素排出係数 0.419 kg-CO₂/kWh 2025年は関西電力会社の2025年度の調整後の係数
0.318 kg-CO₂/kWh 2023.2024年は関西電力会社の2019年度の調整後の係数

□環境経営目標及びその実績

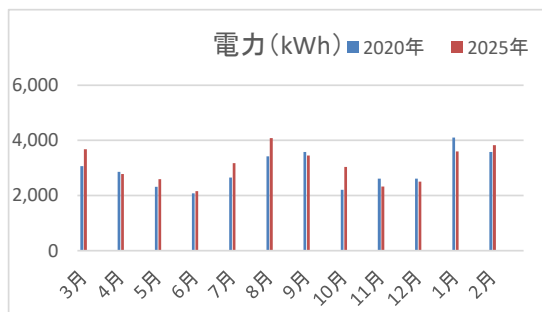
項 目	年 度	基準値	2025年		評 価	2026年	2027年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	14,542	14,179	15,596	×	14,106	14,033
	基準年度比	2020年	97.5%	107.2%		97.0%	96.5%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	44,186	43,082	40,844	○	42,861	42,640
	基準年度比	2020年	97.5%	92.4%		97.0%	96.5%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	58,728	57,260	56,441	○	56,967	56,673
一般廃棄物の削減	kg	598	568	575	×	562	556
	基準年度比	2020年	95.0%	96.2%		94.0%	93.0%
産業廃棄物の削減	kg	5,425	5,154	4,200	○	5,100	5,045
	基準年度比	2020年	95.0%	77.4%		94.0%	93.0%
水使用量の削減	m ³	122	122	121	○	122	122
	基準年度比	2020年	100.0%	99.2%		100.0%	100.0%
グリーン購入の推進 (オフィス用品G購入率)	-	-	-	36%		-	-
環境に配慮した生産活動	台	210	221	163	×	223	225
	基準年度比	2020年	105.0%	77.6%		106.0%	107.0%

※グリーン購入の推進は数値目標とせず、行動目標として設定しています。その過程で年間の購入率を記録しています。

□環境経営計画の取組結果とその評価

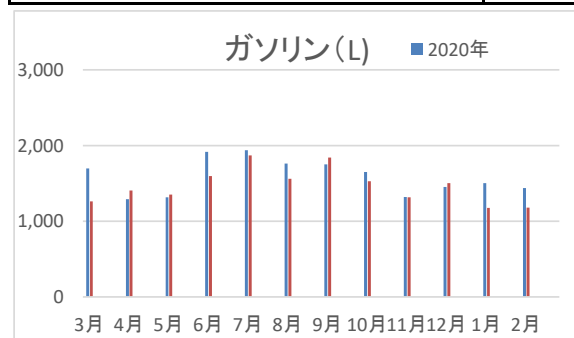
数値目標:○達成 ×未達成

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	目標は未達成という結果になりました。本社においては基準年とほぼ変化がなく、消灯などの行動節電による削減余地は既に出尽くしている可能性があります。一方、テクニカルセンターでは使用量が大幅に増加しており、特に3月～8月の期間において顕著な増加が見られます。業務上の使用状況に変化はないものの、前年実績と比較しても大幅な増加を記録している状態です。不使用エリアの消灯など、社員の節電意識は高く定着しているため、今後は無理のない範囲での空調設定温度の調整を再徹底してまいります。
・空調温度の調整(冷房26℃ 暖房22℃)	○	
・エレベーター使用を控え階段の利用促進	△	
・2F～4F電気温水器 冬季以外は電源オフ	○	
・不使用エリアの消灯	○	



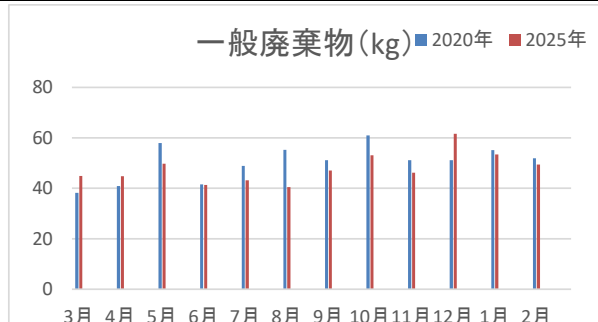
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2020年	3,066	2,861	2,314	2,080	2,654	3,426	3,580	2,212	2,616	2,616	4,106	3,581
2025年	3,678	2,781	2,596	2,162	3,176	4,087	3,454	3,039	2,324	2,505	3,596	3,825

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	年間全体の平均燃費は13.5km/l(営業14.7・技術12.2) 昨年との比較では営業はガソリン車の使用が減ってハイブリッド車の比率が高くなって改善されている。技術は台数変更無し、夏場のエアコン使用量増加の影響で悪化している。引き続き安全運転と車両管理を徹底させるように指示します。
・アイドリングストップ	○	
・タイヤ空気圧の高め設定	○	
・省エネ走行(急発進、急制動、法定速度)	○	



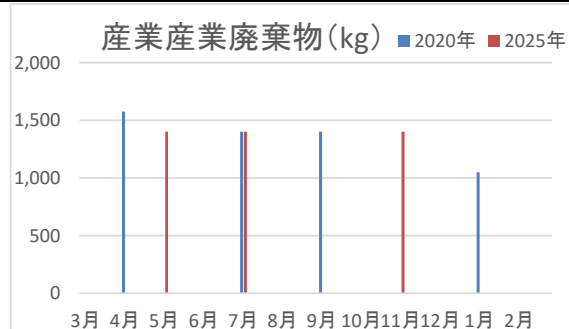
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2020年	1,697	1,290	1,317	1,917	1,936	1,760	1,751	1,651	1,320	1,451	1,503	1,437
2025年	1,262	1,407	1,352	1,598	1,869	1,559	1,840	1,530	1,315	1,505	1,178	1,179

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	目標達成には至りませんでしたが、両面コピーの推進、使用済用紙の裏面利用、段ボールや梱包材の再利用など、資源の節約に継続的に取り組んでいます。また、会議においては資料の印刷を廃止し、MAXHUBを活用することでペーパーレス化を図ってまいりました。今後もこれらの取り組みを継続し、さらなる環境負荷の低減に努めてまいります。
・分別の徹底・3S運動（整理・整頓・清掃）	○	
・両面印刷・両面コピーの推進	○	
・裏紙の利用	○	
・社内会議のプロジェクターやMAXHUBの使用	○	



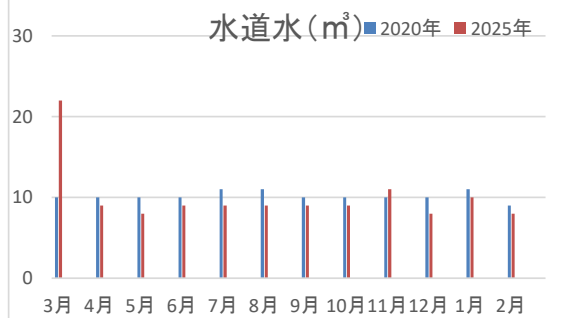
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2020年	38	41	58	42	49	55	51	61	51	51	55	52
2025年	45	45	50	41	43	41	47	53	46	62	53	49

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	産業廃棄物の排出量については、お客様の機器入替に伴い発生するものが大半を占めるため、その増減は受注状況に依存しており、管理上の問題はありません。社内独自の取り組みとして、使用済みトナーカートリッジ等のメーカー返却を徹底しているほか、部品や発泡スチロール等の梱包材についても、返却可能なものはすべて返却し、資源の再循環と廃棄物削減に努めています。
・適正なマニフェストの処理と管理（依頼先・社内）	○	
・産廃処理（廃棄依頼）量の計測監視の継続	○	
・メーカーに返却できるものは返却する	○	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2020年	0	1,575	0	0	1,400	0	1,400	0	0	0	1,050	0
2025年	0	0	1,400	0	1,400	0	0	0	1,400	0	0	0

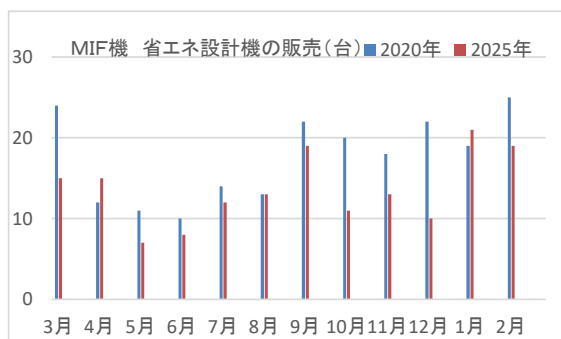
水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標を達成いたしました。期間中の特異点として、3月の水使用量増加は、タンク水排出にともなう意図的な放流によるものです。なお、その他の月においては異常やトラブルはなく、適正な使用量で推移いたしました。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水型器具（タンク/カラン）の採用（交換時期）	×	
・出しっ放し禁止	○	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2020年	10	10	10	10	11	11	10	10	10	10	11	9
2025年	22	9	8	9	9	9	9	9	11	8	10	8

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	—	文房具や事務用消耗品、OA機器の調達において、エコマーク認定品等の環境配慮型製品を優先選択しています。また、消耗品は詰め替え対応製品を優先的に購入し、プラスチック廃棄物の削減とゴミ減量化を推進しています。
・記録表を作成	○	

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	1月～3月末までのキャンペーン50台販売が達成となる。新人と出向者の販売実績が向上している。70台の大口物件も受注しており来期に期待します。
・客先業務合理化の提案促進（主にデジタルMFP）	○	
・M I F 機の省エネ設計機種へのリブレース推進	○	
・客先省エネ促進商材の提案（取扱商品全般）	○	
・メーカー協賛の拡販キャンペーン実施	○	



省エネ性能に優れた機種へのリブレースを推進し、客先でのCO2削減に貢献しています。

従来機から現行機に入れ替えることで、年間約2.33kgのCO2排出量削減につながります。

163台 × 2.62kg(※2) = 年間 427.06kg削減

※1 CO2換算には環境省の「平成20年度の電気事業者別実排出係数」【0.561kg・CO2/1kwh】を利用しています。

※2 当社が多く販売している機種で算出した値です

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2020年	24	12	11	10	14	13	22	20	18	22	19	25
2025年	15	15	7	8	12	13	19	11	13	10	21	19

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等）の保管・排出
消防法（危険物）	危険物の保管
フロロ排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等
・2025年度の苦情はなし

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2026年1月13日（火）	■実施場所 5F及び各階西側ベランダ避難梯子
■参加者： 営業、技術、ITシステム、業務 合同	
■実施内容： □通報訓練 □消火訓練 ☒ 避難訓練	
火災、災害時に上層階より緊急下降する場合の梯子装置使用方法を習得、再確認する。	
■評価： 人が居れば当たる可能性が有り危険である。二次被害も考慮した作業、行動が必要。	手順書の変更の必要 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2026年5月22日

令和7年度 当社環境活動の評価及び見直しについて、先ず報告すべきは当期実績が純利益損（赤字）決算で終わったということです。主だった要因としては、あらゆる販売原価の高騰に素早く対応できず、つまりは人件費を含めこれらを顧客への価格へ転化できなかったことに尽きるとの判断です。さらに補填、軽減すべき販売やメンテナンスに関わる活動全般においても合理化を進めることが殆どできなかったと言えます。慢性的に続く人材不足も相まって費用対効果が出せない状況のまま一年が過ぎてしまった感が有ります。一言に業界不況と働き方改革の部分的負の影響が我々中小企業の動き方に逆行する実情があったと言えます。

一方、環境取り組みへの影響はどうであったかと評価すると、部門ごとの仕事では顧客への要望に応えるためや収益を上げること目的では日々成り立たず、それはただ迷惑をかけないためだけの慈善で奔走していましたね。このような状況下では腰を据えての環境取り組み活動はでき得なかったのではと考えます。取引先各メーカー側でもリストラチャリングが多く見られる中、単純な値上げや商品納期の遅延、デリバリー品質の低下が露見してきたことは間違いなく異常気象の問題も原因として国内単位で環境意識は低下しているのではないのでしょうか。

今や企業としてBCP第一で事業を続けること、この数年は社員全員身についた環境意識をもって引き続き活動し、それに前述の費用対効果をも意識したうえで本業に向かい合ってもらいたく思います。クオリティの高い業務遂行は環境取り組みを含めて必ずBCPの強い施策となるはずで。

最後になりましたが令和7年度環境活動は持続性のある有意義なものであったと評価します。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

毎朝の会社周辺道路の清掃活動

